

「人のために」ということばは微妙です。人に喜んでもらえたとき、自分も幸せになり嬉しくなるのは事実です。だけどそれを「人のため」と言ってしまうと、嘘っぽくなります。

中味のない、空っぽのことばが無闇に一人歩きして、そんな嘘のことばを勢いよくまき散らして歩く首相の人氣が上がるのは、ドイツのヒットラー時代を思い出して慄然とします。

桜花いのち一ぱいに咲くからに

生命をかけてわが眺めたり

この桜花は、私には子どもたちだと見えるし、大袈裟かもしれないが、生命がけて眺めるといふことの本質を見極めたいと思います。(あずま こうじ・いしかわ県民教育文化センター)



創立45周年に思う

野沢 静義

創立四十五周年、第四十回総会おめでとございます。音楽を通して交流を広げ、心豊かな社会を創るのが、私達の願いです。共に歩んでまいりましょう。十月にお会いする日を心から楽しみにしています。

(日本フィルハーモニー交響楽団)

日本全国の中で、四日も連続、満杯のお客様のコンサートは新潟だけです。皆様の音楽に対する熱い思いとエネルギーに感動致しました。皆様から頂いたあの熱い拍手を大きなエネルギーにして、元気で歌い続けて参ります。ますますのご発展を心からお祈り申し上げます。

(ベギー葉山)

にいがた

北から南から



六月十八日、にいがた音楽鑑賞会（旧新潟

労音）の創立四十五周年記念の総会・祝賀会が行われた。会員はもちろん、先に紹介したメッセージにも見られるように、ステージ活動を大切にしている多くの音楽家達の期待を集めてのものであった。この十月に日本フィル、テノール歌手・錦織健と共演する若手人氣ソプラノ歌手の蒲原史子さんの美しく感動的な歌声で祝賀会も大いに盛り上がり、四ステージ（一例会で昼二回・夜二回）・四千八百名会員と、全体の約九二%を占める越後女パワード、日本一に発展した会を祝う希望に満ちた総会だった。

会が誕生したのは、まだ戦争の傷跡も残る一九五六年八月。「ヨーゼフ・モルナール」のハーブの演奏会で、会費百円・入金金五十円からの出発だった。それから四十五年経った今、様々な音楽会の乱立や益々深刻化する経済不況等で、このような「会」の運営は一般的には大変やりにくい時代になったと言われている。そんな中で新潟の成果は、全

国的にも注目を受けている。

ところで、先にも書いたように「会員のほとんどが女性であること」、これは私達の会だけでなく、観劇等他の芸術文化活動の分野でも共通の現象のようである。一昨年ヨーロッパでオーケストラやオペラを鑑賞する機会があったのだが、会場に集まる観客は男女ほぼ同数。女性ばかりがホールを埋め尽くすこの日本の現象は世界的にもあまり類がないようであるし、実際外国の音楽家達に驚かれる事もしばしばだ。

なぜ、日本ではこのような異状とも言える現象が生まれているのだろうか。女性達が文化芸術に大いにいそんでいる間、世の男性軍はどこで何をしているのだろうか。暗い話題ばかりが新聞やニュースを埋める現実の中、日々感動を積み重ねる事で生き生きとした人生を楽しむ元気な女性達を眩しく眺めているうちに、ふと考えさせられるこの頃である。

（のざわ しずよし・にいがた音楽鑑賞会事務局長）